

# 戦後における日本と中国の道德教育に関する一考察

—小学校国語教科書にみられる価値志向性の比較を通じて—

(特別支援教育講座) 班 婷

## Moral Education in Japan and China After the Second World War

—through a comparative study on value orientation of National Language's textbooks in primary school —

BAN Ting

(2020 年 9 月 1 日受理)

### 1. はじめに

本研究では、戦後の、2000 年代に至るまでの日本と中国の小学校国語教科書にみられる価値志向性を分析する。そして両国が初等教育において求める人間像を比較することを通じて、両国の道德教育の一側面を明らかにする。

日本と中国は、古くから儒教思想のもとで教育が行われていた。近代以降の両国の教育にも、儒教思想は保持されていた。中国が近代教育を推進する際、十数年にわたり日本をモデルにしていたが、その内因の 1 つは、日本の教育が忠君愛国を含む儒教道德を重んじていたことであった<sup>1</sup>。言い換えれば、中国の道德教育、当時でいう修身教育は日本から大きな影響を受けていたのである。

ただし、その後の両国の道德教育は異なる方向へと進んでいく。まず中華民国の成立(1912年)後の中国では、国家体制が共和制になり、次第に君主立憲制を維持している日本の道德教育モデルから距離をとるようになった。さらに戦後に至ると、日本はGHQの指導のもとで道德教育を刷新し、一方の中国では中華人民共和国が成立(1949年)し、社会主義に沿う道德教育を推進していった。

儒教思想を基底としつつも、それぞれの道を歩み

始めた日中の道德教育には、どのような異同があるのだろうか。そもそも両国の道德教育はどのように変遷してきたのだろうか。これらを検討することは、今日の両国の道德教育に対する理解を深めるうえで重要な課題である。また今後の道德教育の在り方に示唆を与えることもできると考える。

日中の道德教育を比較した先行研究は少なく、両国の研究史を見渡しても比嘉佑典・王秋華(1994、1996)<sup>2</sup>、杉本均・李霞(2006)<sup>3</sup>、武小燕(2016)<sup>4</sup>があげられる程度に留まる。比嘉らの研究では、1990年代における日中両国の道德教育の理念や内容について、学習指導要領や教材の検討を通じて比較分析を行ったうえで、両国の道德教育の問題点と課題を示した。杉本らの研究では、学習指導要領等の分析を通じて、1980年代以降の両国の道德教育政策を整理したうえで、2003年および翌年に授業の参与観察を行い、児童・生徒の主体性に着目して比較分析をした。武の研究では、戦前と戦後における両国の道德教育の連続性に注目し、近代以降の道德教育政策の整理・分析を行った。本研究では、以上の研究より大きな示唆を得ている。

しかしながら、これらの研究では、道德教育を道德の教科(もしくは道德の時間)の枠組みの中で検

討している。日中に限らず多くの国において道德教育は教育課程全体を通して行うものである。道德の教科内に限った検討のみでは、道德教育の全体像を描くことができないと考える。

そこで、本研究では、道德教育を行ううえで重要な教科である国語科に焦点をあてる。国語科の授業では、単に言語技法としての文法や文字表現のみが子どもに教授されるわけではない。そこで扱われる単元や題材には、狭義の言語教育に留まらない国民教育の志向性やメッセージが含意されている。言い換えれば、国語教育は単なる「言語教育」にとどまらず、子どもの価値観や人間観を形成する作用を果たす特色的な教科である。以上のことを踏まえれば、日中両国の小学校国語教科書にあらわれる価値志向性を解明することは、それぞれの国が期待する人間像を明らかにすることになり、ひいては両国の道德教育の一側面を解明することに繋がるだろう。

## 2. 研究対象及び研究方法

本研究では、中国の人民教育出版社と日本の光村図書出版が発行した小学校国語教科書を資料として扱う。その理由は、両教科書がそれぞれの国において広く扱われていたことによる。

人民教育出版社は 1950 年に中国で創立された。それ以降、1980 年代後半の教科書審定制が始まるまでの約 30 年間、この出版社は全国の教科書の編纂・発行を全て担当していた<sup>5</sup>。また、教科書制度が審定制に変わってからも、人民教育出版社版の国語教科書が占めるシェアは絶大であった。

一方、光村図書出版についても、日本の小学校国語教科書におけるシェアは比較的大きい<sup>6</sup>。両社の教科書はひろく受け入れられていたという点で、一般性を担保するものと言えよう。

両社の教科書を 1950 年代から 2000 年代まで、およそ 10 年ごとに収集した。具体的には、人民教育出版社の教科書は 1955 年版、1961 年版、1978 年版、1986 年版、1993 年版、2001 年版の 6 版を取り上げている。光村図書出版の教科書は 1954 年版、1960 年版、1976 年版、1985 年版、1991 年版、2001 年

版といった 6 版を取り上げている<sup>7</sup>。また、全学年を分析するのが困難なため、1、3、5 学年の教科書を研究対象とする。取り扱う教科書について、詳しくは文末に一覧を掲げているが、中国 27 冊（教材数 1514 編）、日本 36 冊（教材数 554 編）<sup>8</sup>となっている<sup>9</sup>。

また、研究方法は以下の通りである。

①教科書の価値志向性を分析するため、まず価値志向性の指標を作成する。後述の李広（2017）<sup>10</sup>の研究で提案された指標を批判的に継承し、再検討を加え、新たな指標群も提案したい。とりわけ後述のように、同じ教材でも異なる価値志向性が潜んでいる。教科書がもつメッセージ性が多義的であるなか、そのメッセージ性をどのように分析し、指標を立てるかが、本研究における重要な課題である。

②教科書の精読を通して、それぞれに現れた価値志向性を整理し、各時期において期待される人間像の異同を分析する。教科書とセットとなる教師用の学習指導書も援用する。そこに記載されている目標やねらいに注目し、価値志向性に関するキーワードを拾い出して価値志向性の分析を補完していく。

## 3. 教科書からみる価値志向性

### 3-1. 両国の国語教科書から現れる価値志向性

価値志向性の指標に関しては、前掲した李（2017）の研究で用いられた項目を参考にして作成した。李の研究では、国語科教育の比較研究の視点から、2000 年代初頭における日中両国の小学校国語教育課程の価値志向性と文化類型を比較分析している。この研究では、道德の比較を行う際の基本的な項目の設定が試みられており、大きな参考になる。氏の研究では、価値志向性を以下のように 38 項目に分類している。

- ①愛国、②故郷を愛する、③自然を愛する、④科学知識、⑤自立、⑥謹慎細緻、⑦環境意識、⑧（国の）指導者を愛する、⑨家族や友達に対する愛情、⑩知恵、⑪労働を愛する、⑫誠実・信頼、⑬自己表現、⑭時間を大切にする、⑮両岸（中国大陸と台湾を指す）情、⑯哲理、⑰生命の尊重、⑱自信・楽観、⑲民族友好、⑳好奇

心・探求、⑳勉強の意欲、㉑謙虚・寛容、㉒勇敢、㉓人格・陶冶、㉔思考力、㉕協力意識、㉖国際理解、㉗奉仕精神、㉘未来・希望、㉙平和、㉚客観的論理的考え方、㉛懐古・思い出、㉜勤労・善良、㉝迷信、㉞「小」を尊重する、㉟個性の尊重、㊱想像力、㊲恋。

しかし、この指標は 2000 年代初頭の教科書分析のために作られたものであり、筆者が分析対象としている戦後から 2000 年代までの教科書の価値志向性をすべてカバーすることが難しいと考える。そこで、筆者はこの指標群をベースに、教科書内容を踏まえて価値志向項目を再検討した。加えて、指標群の項目が多いため、比較分析の便宜上、5 つの上位分類を設定した。再検討した上位分類と下位項目は下記の通りである。

#### 一. 個人・個性・独創

①自立・克己、②自己表現・主張、③自信・樂觀、④勇気、⑤好奇心・探求、⑥将来・目標・希望、⑦個性の尊重、⑧想像力。

#### 二. 人格・修養

⑨謹慎細緻、⑩労働・勤労、⑪誠実・信頼、⑫時間を大切にする、⑬勉強の意欲、⑭謙虚・寛容、⑮模範・陶冶、⑯ボランティア・奉仕精神、⑰道理・生き方、⑱懐古・思い出、⑲清貧・善良・儉約。

#### 三. 科学・教養・論理

⑳自然科学・社会科学知識、㉑環境意識、㉒知恵、㉓思考力・判断力、㉔客観的論理的思考、㉕迷信、㉖常識・マナー・ルール、㉗自然を愛する・共存。

#### 四. 人間関係・他者理解

㉘友愛・愛情、㉙生命の尊重、㉚協力意識、㉛「小」を尊重する、㉜恋、㉝師弟愛。

#### 五. 国家・民族・世界

㉞愛国（共産党を愛する・国への奉仕精神を含む）、㉟故郷を愛する、㊱指導者を愛する、㊲兩岸（中国大陸と台湾を指す）情、㊳民族理解、㊴平和、㊵国際理解。

以上の項目分類に基づいて、教科書の解説を行い、そこにみられる価値志向性を分類した。上述した通り、教師用の学習指導書も援用し、その中の価値志向性に関するキーワードも拾い出し、価値志向性分析の根拠とした。

両国のそれぞれの時期の教科書にみられる価値志向性の統計結果を次頁以降の表 1<sup>11</sup>と表 2<sup>12</sup>にまとめた。

### 3-2. 両国国語教科書に現れる価値志向性の全体的傾向

両国の教科書の価値志向性には、共通する価値志向項目が33項目あった。一方で、中国の教科書に記述がないのは「個性の尊重」、「『小』を尊重する」などであり、日本の教科書に記述が確認できない項目としては「時間を大切にする」、「民族理解」、「兩岸情」、「指導者を愛する」、「知恵」があった。また、「友愛・愛情」、「自然科学・社会科学知識」、「自然を愛する・共存」、「勉強の意欲」、「想像力」、「自立・克己」、「国際理解」といった7項目は、両国の教科書で共通に構成率の上位10位以内に入っている。

次に中国と日本それぞれの価値志向性を見てみる。表1から分かるように、5つの上位分類の中で、中国の教科書で最も大きな割合を占めているのは「国家・民族・世界」である。その次は、「科学・教養・論理」であり、「人格・修養」が僅かの差で3位に位置づく。また、価値志向性下位項目を見ると、「愛国」が最も顕著であり、頻度は40項目の中の一位である。「自然科学・社会科学知識」の頻度は「愛国」には遥かに及ばないものの、その他の項目よりも高い。それに続くのが「労働・勤労」、「自然を愛する・共存」、「友愛・愛情」である。

一方で、日本の教科書では、5つの上位分類のうち「個人・個性・独創」の割合が最も高い。その次は「科学・教養・論理」であり、「人間関係・他者理解」が僅差でそれに次ぐ。また、下位項目を見ると、「友愛・愛情」の頻度が最も高く、それに続いて「想像力」、「自然科学・社会科学知識」、「勉

表1 中国の国語教科書に見る価値志向性(年代別)

上位分類	価値志向性 下位項目	1955年版		1961年版		1978年版		1986年版		1993年版		2001年版		計	
		頻度	構成率												
一. 個人・ 個性・ 独創	1. 自立・克己	10	4.1%	6	2.1%	16	4.7%	11	4.1%	6	6.5%	7	2.5%	56	3.7%
	2. 自己表現・主張	0	0.0%	1	0.3%	1	0.3%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.2%
	3. 自信・楽観	0	0.0%	3	1.0%	1	0.3%	1	0.4%	0	0.0%	2	0.7%	7	0.5%
	4. 勇気	4	1.6%	5	1.7%	3	0.9%	5	1.9%	2	2.2%	1	0.4%	20	1.3%
	5. 好奇心・探求	0	0.0%	3	1.0%	8	2.4%	12	4.4%	3	3.3%	8	2.9%	34	2.2%
	6. 将来・目標・希望	4	1.6%	7	2.4%	10	3.0%	8	3.0%	1	1.1%	5	1.8%	35	2.3%
	7. 個性の尊重	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	8. 想像力	5	2.0%	0	0.0%	7	2.1%	6	2.2%	4	4.3%	23	8.3%	45	3.0%
計	23	9.3%	25	8.6%	46	13.6%	44	16.3%	16	17.4%	46	16.6%	200	13.2%	
二. 人格・ 修養	9. 謹慎細緻	1	0.4%	3	1.0%	3	0.9%	2	0.7%	1	1.1%	1	0.4%	11	0.7%
	10. 労働・勤労	26	10.6%	25	8.6%	12	3.6%	17	6.3%	3	3.3%	5	1.8%	88	5.8%
	11. 誠実・信頼	4	1.6%	7	2.4%	4	1.2%	1	0.4%	2	2.2%	8	2.9%	26	1.7%
	12. 時間を大切に	0	0.0%	2	0.7%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	1	0.4%	4	0.3%
	13. 勉強の意欲	11	4.5%	9	3.1%	11	3.3%	8	3.0%	5	5.4%	9	3.2%	53	3.5%
	14. 謙虚・寛容	2	0.8%	0	0.0%	3	0.9%	4	1.5%	1	1.1%	6	2.2%	16	1.1%
	15. 模範・陶冶	5	2.0%	20	6.8%	6	1.8%	4	1.5%	3	3.3%	3	1.1%	41	2.7%
	16. ボランティア・奉仕精神	3	1.2%	17	5.8%	9	2.7%	7	2.6%	1	1.1%	8	2.9%	45	3.0%
	17. 道理・生き方	3	1.2%	4	1.4%	7	2.1%	7	2.6%	4	4.3%	3	1.1%	28	1.8%
	18. 懐古・思い出	0	0.0%	1	0.3%	9	2.7%	4	1.5%	0	0.0%	13	4.7%	27	1.8%
	19. 清貧・善良・儉約	6	2.4%	8	2.7%	9	2.7%	5	1.9%	3	3.3%	3	1.1%	34	2.2%
計	61	24.8%	96	32.9%	73	21.7%	60	22.2%	23	25.0%	60	21.7%	373	24.6%	
三. 科学・ 教養・ 論理	20. 自然科学・社会科学知識	45	18.3%	24	8.2%	44	13.1%	39	14.4%	14	15.2%	27	9.7%	193	12.7%
	21. 環境意識	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.4%	4	0.3%
	22. 知恵	0	0.0%	5	1.7%	2	0.6%	6	2.2%	1	1.1%	9	3.2%	23	1.5%
	23. 思考力・判断力	2	0.8%	5	1.7%	3	0.9%	7	2.6%	2	2.2%	5	1.8%	24	1.6%
	24. 客観的論理的思考	3	1.2%	2	0.7%	0	0.0%	1	0.4%	2	2.2%	2	0.7%	10	0.7%
	25. 迷信	1	0.4%	1	0.3%	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	6	0.4%
	26. 常識・マナー・ルール	15	6.1%	8	2.7%	8	2.4%	4	1.5%	1	1.1%	2	0.7%	38	2.5%
計	79	32.1%	48	16.4%	74	22.0%	75	27.8%	28	30.4%	74	26.7%	378	25.0%	
四. 人間関 係・他 者理解	28. 友愛・愛情	8	3.3%	7	2.4%	19	5.6%	12	4.4%	2	2.2%	28	10.1%	76	5.0%
	29. 生命の尊重	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	1	0.1%
	30. 協力意識	2	0.8%	4	1.4%	5	1.5%	1	0.4%	0	0.0%	2	0.7%	14	0.9%
	31. 「小」を尊重する	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	32. 恋	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	33. 師弟愛	2	0.8%	1	0.3%	5	1.5%	2	0.7%	2	2.2%	0	0.0%	12	0.8%
計	12	4.9%	12	4.1%	29	8.6%	15	5.6%	4	4.3%	31	11.2%	103	6.8%	
五. 国 家・民 族・世 界	34. 愛国(共産党を愛する・国への奉仕精神を含む)	48	19.5%	90	30.8%	75	22.3%	57	21.1%	13	14.1%	24	8.7%	307	20.3%
	35. 故郷を愛する	1	0.4%	0	0.0%	2	0.6%	3	1.1%	1	1.1%	12	4.3%	19	1.3%
	36. 指導者を愛する	16	6.5%	10	3.4%	24	7.1%	8	3.0%	4	4.3%	5	1.8%	67	4.4%
	37. 兩岸(中国大陸と台湾を指す)情	1	0.4%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.1%
	38. 民族理解	4	1.6%	1	0.3%	2	0.6%	2	0.7%	1	1.1%	6	2.2%	16	1.1%
	39. 平和	1	0.4%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.1%
	40. 国際理解	0	0.0%	10	3.4%	10	3.0%	6	2.2%	2	2.2%	19	6.9%	47	3.1%
計	71	28.9%	111	38.0%	115	34.1%	76	28.1%	21	22.8%	66	23.8%	460	30.4%	
計	246	100.0%	292	100.0%	337	100.0%	270	100.0%	92	100.0%	277	100.0%	1514	100.0%	

強の意欲」と「自然を愛する・共存」の順になっている。

日中の教科書を比較すると、「愛国」について、中国は日本より遙かに高い数値を示しており、構成率差は19.9%と高いものとなっている。それに続いて、「指導者を愛する」の構成率差は4.4%、「労働・勤労」の構成率差は4.2%、「自然科学・社会科学知識」の構成率差は1.9%、「模範・陶冶」の構成率差は1.8%、「ボランティア・奉仕精神」の構成率差は1.7%となっている。

反対に、日本の構成率が中国より高い項目として

は「友愛・愛情」（構成率差12.9%）、「想像力」（構成率差9.3%）、「勉強の意欲」（構成率差5.7%）、「自然を愛する・共存」（構成率差2.5%）、「好奇心・探求」（構成率差2.3%）、「国際理解」（構成率差2.3%）があげられる。

以上の比較結果から、日中それぞれの国が重視している価値志向性、言い換えれば、期待している人間像が明確に示されていると言える。中国の教科書は思想性が強く、国家や指導者を愛する、労働を愛するといった内容が子どもに伝えられている。さらに、子どもの人格形成に力を入れており、成功した

表 2 日本の国語教科書に見る価値志向性(年代別)

価値志向性		1954年版		1960年版		1976年版		1985年版		1991年版		2001年版		計	
上位分類	下位項目	頻度	構成率												
一、個人・個性・独創	1. 自立・克己	6	5.2%	3	3.4%	2	1.7%	1	1.4%	3	3.0%	1	1.6%	16	2.9%
	2. 自己表現・主張	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%	2	2.9%	2	2.0%	1	1.6%	7	1.3%
	3. 自信・楽観	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
	4. 勇気	1	0.9%	0	0.0%	2	1.7%	1	1.4%	3	3.0%	1	1.6%	8	1.4%
	5. 好奇心・探求	3	2.6%	4	4.5%	3	2.5%	1	1.4%	10	10.1%	4	6.3%	25	4.5%
	6. 将来・目標・希望	9	7.8%	5	5.7%	1	0.8%	3	4.3%	3	3.0%	1	1.6%	22	4.0%
	7. 個性の尊重	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%	1	0.2%
	8. 想像力	11	9.5%	3	3.4%	23	19.3%	10	14.5%	15	15.2%	6	9.5%	68	12.3%
	計	31	26.7%	15	17.0%	33	27.7%	18	26.1%	36	36.4%	15	23.8%	148	26.7%
二、人格・修養	9. 謹慎細緻	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	1	1.4%	1	1.0%	1	1.6%	4	0.7%
	10. 労働・勤労	4	3.4%	1	1.1%	2	1.7%	2	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	9	1.6%
	11. 誠実・信頼	1	0.9%	2	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	1	1.6%	5	0.9%
	12. 時間を大切に	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	13. 勉強の意欲	9	7.8%	8	9.1%	17	14.3%	7	10.1%	7	7.1%	3	4.8%	51	9.2%
	14. 謙虚・寛容	1	0.9%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
	15. 模範・陶冶	1	0.9%	2	2.3%	1	0.8%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	5	0.9%
	16. ボランティア・奉仕精神	3	2.6%	3	3.4%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	1.3%
	17. 道理・生き方	1	0.9%	0	0.0%	4	3.4%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	6	1.1%
	18. 懐古・思い出	1	0.9%	1	1.1%	1	0.8%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.7%
19. 清貧・善良・儉約	1	0.9%	3	3.4%	1	0.8%	2	2.9%	1	1.0%	1	1.6%	9	1.6%	
計	22	19.0%	21	23.9%	28	23.5%	15	21.7%	10	10.1%	6	9.5%	102	18.4%	
三、科学・教養・論理	20. 自然科学・社会科学知識	10	8.6%	8	9.1%	11	9.2%	11	15.9%	13	13.1%	7	11.1%	60	10.8%
	21. 環境意識	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.2%	2	0.4%
	22. 知恵	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	23. 思考力・判断力	2	1.7%	3	3.4%	3	2.5%	3	4.3%	1	1.0%	1	1.6%	13	2.3%
	24. 客観的論理的思考	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%	0	0.0%	1	1.0%	2	3.2%	5	0.9%
	25. 迷信	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	1	1.6%	2	0.4%
	26. 常識・マナー・ルール	5	4.3%	5	5.7%	2	1.7%	2	2.9%	2	2.0%	1	1.6%	17	3.1%
	27. 自然を愛する・共存	9	7.8%	8	9.1%	6	5.0%	3	4.3%	9	9.1%	8	12.7%	43	7.8%
計	26	22.4%	24	27.3%	24	20.2%	19	27.5%	27	27.3%	22	34.9%	142	25.6%	
四、人間関係・他者理解	28. 友愛・愛情	22	19.0%	23	26.1%	22	18.5%	10	14.5%	12	12.1%	10	15.9%	99	17.9%
	29. 生命の尊重	2	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	3	3.0%	1	1.6%	7	1.3%
	30. 協意識	2	1.7%	1	1.1%	4	3.4%	1	1.4%	1	1.0%	1	1.6%	10	1.8%
	31. 「小」を尊重する	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	1	1.4%	1	1.0%	1	1.6%	4	0.7%
	32. 恋	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	33. 師弟愛	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
	計	27	23.3%	24	27.3%	27	22.7%	13	18.8%	17	17.2%	13	20.6%	121	21.8%
五、国家・民族・世界	34. 愛国(共産党を愛する・国への奉仕精神を含む)	2	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
	35. 故郷を愛する	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%	2	0.4%
	36. 指導者を愛する	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	37. 兩岸(中国大陆と台湾を指す)情	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	38. 民族理解	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	39. 平和	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	2	2.9%	3	3.0%	1	1.6%	7	1.3%
	40. 国際理解	7	6.0%	4	4.5%	6	5.0%	2	2.9%	6	6.1%	5	7.9%	30	5.4%
計	10	8.6%	4	4.5%	7	5.9%	4	5.8%	9	9.1%	7	11.1%	41	7.4%	
計	116	100.0%	88	100.0%	119	100.0%	69	100.0%	99	100.0%	63	100.0%	554	100.0%	

人物をモデルにして子どもたちに見習わせる教材も日本より多くみられる。

一方、日本の教科書では、愛情を表現する教材が多く、子どもたちが想像しながら楽しく勉強できるように工夫をしていることが分かる。さらに、自然に恵まれているという日本人従来の考え方もあり、自然への親しみも子どもたちに求めている。

### 3-3. 時代の流れのなかの価値志向性

2つの表から、両国の教科書にみる価値志向性が

時代によって変化していることも読み取れる。以下では、時代とともに変化している価値志向性とは何か、また時代を問わず不変な価値志向性とは何かを検討してみたい。

#### (1) 半世紀にわたり一貫した基盤的価値志向性

本研究で設定した6つの時代区分のいずれにおいても存在している価値志向性は、中国の教科書に20項目、日本の教科書に12項目確認できた。中国の教科書では、「自立・克己」、「勇気」、「将来・目

標・希望」、「謹慎細緻」、「労働・勤労」、「誠実・信頼」、「勉強の意欲」、「模範・陶冶」、「ボランティア・奉仕精神」、「道理・生き方」、「清貧・善良・儉約」、「自然科学・社会科学知識」、「思考力・判断力」、「常識・マナー・ルール」、「自然を愛する・共存」、「友愛・愛情」、「愛国」、「指導者を愛する」、「民族理解」、「国際理解」である。一方の日本の教科書は、「自立・克己」、「好奇心・探求」、「将来・目標・希望」、「想像力」、「勉強の意欲」、「清貧・善良・儉約」、「思考力・判断力」、「常識・マナー・ルール」、「自然を愛する・共存」、「友愛・愛情」、「協力意識」、「国際理解」である。ここからも日中両国それぞれの基盤的価値志向性を垣間見ることができるだろう。

## (2) 減少傾向にある価値志向性

中国の教科書では、1986年版までは「自己主張・自己表現」に関わる教材があったが、1993年版と2001年版の教科書ではそれが見当たらない。また、「平和」「兩岸情」に関する記述も1955年版と1978年版の教科書でのみ確認できる内容であった。

一方、日本の教科書では、「自信・楽観」、「師弟愛」、「愛国」という3つの価値志向性を含む教材は1954年版の教科書にのみ掲載されていた。また、「謙虚・寛容」が1970年代以降、「ボランティア・奉仕精神」が1980年代以降、「労働・勤労」、「模範・陶冶」、「懐古・思い出」が1990年代以降に消失している。

## (3) 強調傾向にある価値志向性

両国ともに「環境意識」に関わる記述が2001年版の教科書から確認できるようになる。

両国それぞれを見てみると、中国の教科書では、「好奇心・探求」、「知恵」が1960年代以降に登場する。「生命の尊重」も「環境意識」と同じく2000年代の教科書から現れるのである。

また興味深い事実として、中国の1978年版の教科書には、初めて日本人による文章が教科書に収められている。1972年の日中国交正常化を背景に、徳

永直の作品「馬」(5年)と木山捷平の「大倉先生」(5年)が掲載された。1986年版以降の教科書では、この2つの教材が消失しているが、日中国交正常化という政治背景のもとで、日本に対する国際理解も子どもの視野に入っていた。

一方の日本の教科書を見ると、「自己表現・主張」、「『小』を尊重する」、「客観的・論理的思考」、「謹慎細緻」、「平和」といった項目が1970年代以降に登場する価値志向性である。

## 4. 日中国語教科書価値志向性の異同—具体例分析

前章において、両国の教科書に現れる価値志向性の量的比較を試みた。本章では、両国の教科書にある教材及び価値志向項目の具体的な分析を行いたい。

### 4-1. 日中両国の教科書ともに掲載されている教材

本研究で扱っている教科書の中には、日中両国の教科書に載せられている教材が僅かだが存在している。しかしながら、同じ教材であっても、示される価値志向性が異なる。ここではその例を2つ提示する。

#### (1) 教材「おおきなかぶ」

中国では1950年代の教科書に既に「おおきなかぶ」が入っている。日本でも1970年代以降の教科書に定着している。日中両国の国民とも親しみのある教材であろう。「おおきなかぶ」はロシアの物語であり、かぶを抜こうとして、順番におじいさん、おばあさん、孫、犬、猫、ねずみが登場して、力を合わせて引っ張って、ようやくかぶが抜けるという話である。

日本の学習指導書では、年代によって説明がやや異なるが、「働くすがた」「協力」「弱いものでも大きな働きをする」といったキーワードが確認できる。それぞれ⑩労働・勤労、⑳協力意識、㉑「小」を尊重するといった価値志向項目に対応する。

中国では如何だろうか。学習指導書では、「児童の集団主義精神を養う」という言い方が採られている。建国してしばらくの間、中国では「国家」「集

団」意識を重視していたことが要因と考えられる。

こうして見ると、同じ教材であっても、それぞれの国で強調される点異なる様相が窺える。日本では「人間関係・他者理解」に関わる点が重視されており、中国の場合は、「国家・集団」に関わる点が強調されているのである。

## (2) 教材「おつきさまとさる」

「おつきさまとさる」は、日中ともに 1970 年代の 1 年生用の教科書に掲載されている。中国の昔話である。さるたちが、水の中の月を見て、「おつきさまが水に落ちた」と騒ぎ助けようとしたが、水に飛び込んだら月が見えなくなった。頭を上げると、なんと月が空にあった、という話である。この話について、日本の学習指導書では、場面を想像しながら面白く読むことが求められている。⑧「想像力」に当てはまると言える。一方の中国の学習指導書を見ると、「何事に対しても頭を使ってよく考えて、調査研究をしてから認識すべきである」とあり、②③「思考力・判断力」に当てはまる。子どもの思考力養成に重点を置いているのである。ここから、日本の「感性的理解」と中国の「理性的思考」という国語教育観の相違がうかがえる。

さらに言えば、実はこの物語の描写が、日本の教科書と中国の教科書では全く異なるのである。この物語は本来、さるたちが水面にも触れることもできず、水に落ちてしまって終わりを迎える。だが、中国の教科書では、さるたちが指で水面に触れると、水の中の月が見えなくなったのに気づく。頭を上げると月が空にあるのを見て、落ちていないことが分かったところで終わる。一方で日本の教科書では、さるたちが水に飛び込み、月がないことに気づいて、頭を上げると月が空にのぼっているのを見て、「ぼくたちがたすけたんだ」と喜んだのが物語の終わりである。

中国の『法苑珠林』に典拠をもつこの物語は、本来は、見たことをよく考えない人はひどい目にあうという教訓を説くのが趣旨である。最後にさるたちが水に落ちてしまったのは「ひどい目」の具象である。しかし、中国の教科書では、ストーリーを穏当

に書き換えており、水に落ちるという「ひどい目」は消されてしまっている。教科書では「思考すべき」という教訓のみ伝えるかたち書き換えられているのである。

日本の教科書で描かれる「ぼくたちがたすけたんだ」と満足しているさるたちは、いかにも可愛くて面白い。「思考すべき」という教訓より、物語の場面を想像して楽しむことが子どもたちに求められたのである。

## 4-2. 共通する価値志向項目における異なる傾向

### (1) 「自然を愛する・共存」

「自然を愛する・共存」は日中いずれの教科書にもよく現れる価値志向項目である。確かに、四季に対する季節感や、自然景色に対する親しみや、動植物の人間の生活での働きなどの内容は、日中いずれの教科書にも確認できる。一例を挙げると、中国の教科書では「雪だるまよ、聞かせて」（1955 年版 1 年）などが、日本のほうでは「なつがきた」（1960 年版 1 年）などがそのような価値志向性を示している。

しかし、1980 年代までの中国の教科書には、「自然を征服する」のような考え方も見られた。1961 年版 1 年の教科書に掲載されている「やはり人間が最も知恵があるのだ」という教材は、兄弟 2 人の会話の形で展開されている。弟が、馬が早く走れるのを見て、人間がそれほど早く走れないから馬に劣っていると云った。兄は、人間が汽車、船、飛行機など様々なものが作れるから、馬や魚などより知恵があると弟に教えた。この教材について、学習指導書では、「児童の労働・科学を愛する精神を養い、自然を征服する理想を持たせる」と明記されている。

また、1986 年版の教科書にある「大森林の主人」の授業のねらいにも、「自然にあるものを上手く利用し、自然の主人となる」というような価値志向性が現れている。こうした記述は、恐らくは経済的発展を未だ十分に遂げていない当該期の中国にとっては、「自然との共存」より、自然を利用し国を発展させることに意識が向いていたからであろう。

## (2) 「勉強の意欲」

「勉強の意欲」ではどうだろうか、この項目は両国とも頻度が低くない。実際の内容を見ると、1990年代までの中国の教科書では、「将来祖国の建設のために自分の力を貢献できるように、今のうちよく勉強するようにさせる」という意味の説教的「勉強の意欲」の傾向が強い。たとえば、1986年版3年の教科書にある「私の弟」の授業のねらいでは、「彼が革命のために、新中国を建設するために一所懸命勉強する精神を習わせ、児童の勉強する積極性を引き出す」という表現をしている。

それとは対照的に、日本の教科書では、勉強の面白さ、興味・関心のもと積極的に探究する姿を示す教材が多い。たとえば、1970年代の教科書にある「しっぽのやくめ」という教材の授業のねらいでは、「読むことによって、新しいことを知る喜びを味わい、積極的に読む意欲を育てるように心がけたい。」と書かれている。このように、勉強から得た喜びから、自らもっと学習したいという気持ちが湧いてくることが求められている。

しかし2000年代以降、中国でも子どもの自主的学習意欲を重視するようになってきている。2001年の教科書を見ると、「将相和」「景陽岡」「猴王出世」<sup>13</sup>などの教材は中国の古典文学から引かれたものであり、その単元のねらいには、「面白く読んで、さらに自分で興味のある古典や名著を探して読もうとする気持ちを養う」とある。これは、説教的に勉強させる方法から、子どもが自らもっと学びたいという気持ちを引き出す方法へ転換した証だと考えられる。

## 5. おわりに

本研究では、戦後、2000年代までの日本と中国の小学校国語教科書にみられる価値志向性の変遷を比較検討し、両国の道德教育史の一側面を考察した。具体的には以下のことを明らかにした。

(1) 全体を俯瞰して見ると、中国の教科書で最も顕著な価値志向性は「愛国」であり、全体の20.3%を占めている。国家が形成しようとする人間像（国民像）が、かなりストレートに表れている。

一方、日本で最も顕著なのは「友愛・愛情」（17.9%）である。ここから、日本では、人間関係を重視した国民の形成を期待していることが推測できる。

(2) 両国に共通で現れた価値志向性が33項目（協力意識、平和、誠実・信頼など）に達した。加えて両国の価値志向性の上位10位以内に、共通する項目が7項（友愛・愛情、想像力、国際理解など）あった。この事実は、冒頭で述べたような両国に共通した歴史的な文化基盤が未だに残存している証左と言えようか。

一方で、日本の教科書にあって中国の教科書にない価値志向性は「個性を尊重する」と「『小』を尊重する」であり、中国の教科書にあり日本の教科書にない価値志向性は「知恵」、「時間を大切にする」などである。

(3) 日中両国の教科書中の価値志向性には変遷が見られた。たとえば中国では「愛国」がやや後退し、「環境」や「民族理解」が強調されるようになった。日本では「師弟愛」が50年代以降消えており、70年代以降に「自己表現・主張」という価値が打ち出されてくる。これらの事実は、時代の変遷にともなって、国家が求める人間像も変容していることを示している。

最後に、今後の課題を述べておきたい。本研究では李広氏の研究で使われた価値志向性の項目を参考に、価値志向性の項目を検討・修正した。しかしながら、氏の研究の項目は、中国の教科書を念頭に置いて設定されているように思われる。今後研究を進めていくためには、両国の教科書の実情を踏まえた項目設定が必要になる。また、本研究では、国語科教科書に限定して両国の道德教育を分析している。学校生活における規律などを含めて、より広い視野から両国の道德教育の実態を描いていくことも課題である。

## 注

1. 汪婉『清末中国対日教育視察の研究』汲古書院、1998、105～107頁。

2. 比嘉佑典・王秋華「日中道德教育の比較研究—小学校の道德教育を中心に—」『アジア・アフリカ文化研究所研究年報』第 29 号、1994 年、47～66 頁、比嘉佑典・王秋華「日中道德教育の比較研究—中学校の道德教育を中心に—」『アジア・アフリカ文化研究所研究年報』第 31 号、1996 年、163～175 頁。
3. 杉本均・李霞「中国と日本の道德教育にみられる児童・生徒主体性—その理念と実践に関わって—」『京都大学大学院教育学研究科紀要』第 52 巻、2006 年、27～46 頁。
4. 武小燕「日本と中国の道德教育政策に関する比較研究—戦前と戦後の連続性に注目して—」『名古屋経営短期大学紀要』第 57 号、2016 年、31～49 頁。
5. 1958 年と文化大革命の 10 年間を除く。
6. 1965 年以来、光村図書出版社版の国語教科書は国語教科書の中でシェア 1 位を保っており、さらに、1975 年以降、シェアを約 6 割を占めている（財団法人 教科書研究センター「小学校国語教科書データベース」青文社、平成 3 年 3 月により整理）。そのため、光村図書出版社版の国語教科書に対して、社会性が強いという批判もあるが、本研究では光村図書出版社版の教科書を研究対象とした。
7. 本研究では 1955 年～1957 年版、1961 年～1963 年版、1978 年～1979 年版、1986 年～1988 年版、1993 年～1996 年版、2001～2004 年版といった 6 つの時代の教科書を取り上げるが、資料収集の事情により、同じ年代の違う版のものを取り扱う場合もある。便宜のため、本研究では、それぞれ 1955 年版、1961 年版、1978 年版、1986 年版、1993 年版、2001 年版と略称する。
8. 中国の国語教科書は教材が短く、また教材数が多いのに対し、日本の教科書には長い教材が多く、教材数が少ない。それゆえ、本研究では、価値志向性の頻度を統計するだけでなく、各価値志向性が価値志向性全体における構成率も分析の対象とする。
9. 中国の 1993 年版国語教科書の 1 年上、3 年下、五年上下と、日本の 1985 年版国語教科書の 3 年下は資料的制約により、今回の研究対象から外すことにした。
10. 李広『中日小学語文課程価値取向跨文化研究』東北師範大学出版社、2017 年。
11. 表 1 は、文末に掲げている「本研究で取り扱った教科書（中国）」の教科書及びセットとなっている学習指導書を精読した上で、筆者が作成したものである。
12. 表 2 は、文末に掲げている「本研究で取り扱った教科書（日本）」の教科書及びセットとなっている学習指導書を精読した上で、筆者が作成したものである。
13. 「将相和」は司馬遷の著作『史記』からの物語であり、戦国時代の趙国の将・廉頗と宰相・藺相如の話である。  
「景陽岡」は『水滸伝』の一節であり、武松という人が虎を倒した話である。「猴王出世」は『西遊記』から出た物語であり、孫悟空が石から生まれる話である。

#### 参考文献：

- 平田宗史『教科書でつづる近代日本教育制度史』北大路書房、1991 年。
- 財団法人 教科書研究センター「小学校国語教科書データベース」青文社、平成 3 年 3 月。
- 付宜紅『日中国語教育の比較研究—小学校物語文の学習指導を中心に』博士論文（広島大学）、2000 年。
- 伊藤洋編著『国語の教科書を考える—フランス・ドイツ・日本』学文社、2001 年。
- 王智新『現代中国の教育』明石書店、2004 年。
- 石原千秋『国語教科書の思想』筑摩書房、2005 年。
- 財団法人教科書研究センター「初等中等教育の国語科の教科書及び補助教材の内容構成に関する総合的、比較的研究—学力の基礎をなす言語能力の形成を中心として」2008 年。
- 胡旺「中日中小学校教科書制度比較」『当代教育論壇』第 11 期、2008 年、124～127 頁。

石原千秋『国語教科書の中の「日本」』筑摩書房、2009年。

李広『中日小学語文課程価値取向跨文化研究』東北師範大学出版社、2017年。

**本研究で取り扱った教科書（学習指導書は省略）**

**日本：**

『新版 しんこくご 一ねん上』 光村図書出版  
昭和29年初版 昭和30年

『新版 しんこくご 一ねん中』 光村図書出版  
昭和29年初版 昭和30年

『新版 しんこくご 一年下』 光村図書出版 昭和29年初版 昭和30年

『新版 しんこくご 三ねん上』 光村図書出版  
昭和29年初版 昭和30年

『新版 しんこくご 三ねん下』 光村図書出版  
昭和29年初版 昭和30年

『新版 新国語 五年上』 光村図書出版 昭和29年初版 昭和30年

『新版 新国語 五年下』 光村図書出版 昭和29年初版 昭和30年

『しょうがく しんこくご 一ねん上』 光村図書出版 昭和35年

『しょうがく しんこくご 一年下』 光村図書出版 昭和35年

『小学 新国語 三年上』 光村図書出版 昭和35年

『小学 新国語 三年下』 光村図書出版 昭和35年

『小学 新国語 五年上』 光村図書出版 昭和35年

『小学 新国語 五年下』 光村図書出版 昭和35年

『しょうがく しんこくご 一ねん=上』 光村図書出版 昭和51年文部省検定済

『しょうがく しんこくご 一年=下』 光村図書出版 昭和51年文部省検定済

『小学 新国語 三年=上』 光村図書出版 昭和51年文部省検定済

『小学 新国語 三年=下』 光村図書出版 昭和51年文部省検定済

『小学 新国語 五年=上』 光村図書出版 昭和51年文部省検定済

『小学 新国語 五年=下』 光村図書出版 昭和51年文部省検定済

『こくご 一上 かざぐるま』 光村図書出版 昭和60年文部省検定済

『こくご 一下 ともだち』 光村図書出版 昭和60年文部省検定済

『国語 三上 わかば』 光村図書出版 昭和60年文部省検定済

『国語 五上 銀河』 光村図書出版 昭和60年文部省検定済

『国語 五下 大地』 光村図書出版 昭和60年文部省検定済

『こくご 一上 かざぐるま』 光村図書出版 平成3年文部省検定済

『こくご 一下 ともだち』 光村図書出版 平成3年文部省検定済

『国語 三上 わかば』 光村図書出版 平成3年文部省検定済

『国語 三下 あおぞら』 光村図書出版 平成3年文部省検定済

『国語 五上 銀河』 光村図書出版 平成3年文部省検定済

『国語 五下 大地』 光村図書出版 平成3年文部省検定済

『こくご 一ねん（上） かざぐるま』 光村図書出版 平成13年検定済

『こくご 一年（下） ともだち』 光村図書出版 平成13年検定済

『国語 三年（上） わかば』 光村図書出版 平成13年検定済

『国語 三年（下） あおぞら』 光村図書出版 平成13年検定済

『国語 五年（上） 銀河』 光村図書出版 平成13年検定済

『国語 五年（下） 大地』 光村図書出版 平成13年検定済

中国:

- 『初級小学課本 語文 第一冊』人民教育出版社 1955年初版 1957年第三版
- 『初級小学課本 語文 第二冊』人民教育出版社 1955年初版 1956年第二版
- 『初級小学課本 語文 第五冊』人民教育出版社 1956年初版 1957年第二版
- 『初級小学課本 語文 第六冊』人民教育出版社 1956年初版 1957年第二版
- 『語文 第一冊』人民教育出版社 1961年
- 『語文 第二冊』人民教育出版社 1961年
- 『語文 第五冊』人民教育出版社 1961年
- 『語文 第六冊』人民教育出版社 1961年
- 『語文 第九冊』人民教育出版社 1962年
- 『語文 第十冊』人民教育出版社 1962年
- 『全日制十年制学校小学課本（試用本） 語文 第一冊』人民教育出版社 1978年
- 『全日制十年制学校小学課本（試用本） 語文 第二冊』人民教育出版社 1978年初版 1979年第二版
- 『全日制十年制学校小学課本（試用本） 語文 第五冊』人民教育出版社 1979年
- 『全日制十年制学校小学課本（試用本） 語文 第六冊』人民教育出版社 1978年
- 『全日制十年制学校小学課本（試用本） 語文 第九冊』人民教育出版社 1979年
- 『全日制十年制学校小学課本（試用本） 語文 第十冊』人民教育出版社 1980年
- 『六年制小学課本（試用本） 語文 第一冊』人民教育出版社 1987年第二版
- 『六年制小学課本（試用本） 語文 第二冊』人民教育出版社 1988年第二版
- 『六年制小学課本（試用本） 語文 第五冊』人民教育出版社 1984年
- 『六年制小学課本（試用本） 語文 第六冊』人民教育出版社 1988年第二版
- 『六年制小学課本（試用本） 語文 第九冊』人民教育出版社 1987年第二版
- 『六年制小学課本（試用本） 語文 第十冊』人民教育出版社 1988年第二版
- 『義務教育課程標準実験教科書 語文 一年級 下冊』人民教育出版社 2001年全国中小学教材審定委員会審定済
- 『義務教育課程標準実験教科書 語文 三年級 上冊』人民教育出版社 2002年全国中小学教材審定委員会審定済
- 『義務教育課程標準実験教科書 語文 三年級 下冊』人民教育出版社 2002年全国中小学教材審定委員会審定済
- 『義務教育課程標準実験教科書 語文 五年級 上冊』人民教育出版社 2003年全国中小学教材審定委員会審定済
- 『義務教育課程標準実験教科書 語文 五年級 下冊』人民教育出版社 2004年全国中小学教材審定委員会審定済

